

## ■ 共通の成果指標と達成目標

## 国際化関連

## ○ 日本人学生の海外留学促進(実地留学の再開・オンラインの有効活用)

- 渡航制限緩和により、これまで制限がかかっていた実地での留学プログラムが再開。新しく開催するプログラムも加わり、夏季海外短期研修として8研修開催し、約140名が参加、春季では12研修開催し、約190名が参加した。
- 前年度に引き続き、関西大学を中心とした「大学の国際化推進フォーラム」のCOIL型教育プロジェクトにおいて、本学もモジュール(科目群)を提供。令和4年度のプログラムに、本学から合計13名が参加した。
- 海外交流大学には、新たに2か国(スロベニアとヨルダン)が追加され、65か国・地域239大学まで拡大。

## ○ 外国人学生へのサポート強化

- 国連難民高等弁務官(UHCHR)駐日事務所と国連UNHCR協会との難民を対象とする大学院推薦入学制度「UNHCR難民高等教育プログラム(RHEP)」に関する協定の学部での契約期間満了に伴い、更新の協定書調印式を実施。令和9年3月末まで期間を延長した。
- 一般財団法人パスウェイズ・ジャパン(PJ)、日本国際基督教大学財団(JICUF)と共同し、ウクライナの危機が続く状況において、日本で学業の継続を希望するウクライナ学生5名を秋学期より受け入れ開始。

## ○ 海外拠点の活動

- ケニア・ナイロビ大学で本学と交流35周年ならびに本学創立者に対する名誉文学博士号授与30周年を記念するシンポジウムを開催。同大学には本学ナイロビ事務所を前年度開設しており、今回のシンポジウムの開催にあたり大きく貢献した。

## ○ 外国人留学生へのプロモーション

- インド・バンガロールにある高校とMOUを締結し、本学への進学プログラムについての協議を開始。



ナイロビ大学での記念撮影

## ガバナンス改革関連

## ○ クロスアポイントメント制度の活用

- クロスアポイントメント制度を活用することで、双方にとってより柔軟な形で多くの外国人教員等を招聘できるようになった。結果として34件のクロスアポイントメントアグリーメントを締結することができ、令和5年度より制度運用を開始する。

## ○ BEVI-j の本格的な取り組み

- BEVIを用いた活動を推進しているIBAVI(International Beliefs and Values Institute)とMOUを締結し、本学に日本支部が設置された。
- 海外派遣学生に対して継続実施する他、令和4年度1年生以降の全学生に対し、BEVIを用いてディプロマ・ポリシー到達測定を実施開始。今後、定期的にBEVIを受けてもらい、変化を分析していく予定。

## ○ 他大学との連携強化

- プランクトン工学研究所主催のシンポジウムが開催され、本学からは令和3年に終了したSATREPS-COSMOSプロジェクトの概要と報告、令和3年に開始されたSATREPS-EARTHプロジェクトの概要と進捗報告を行った。シンポジウムでは、グアナファト大学、モンテレイ工科大学、東京工業大学からも教員が登壇された。

## 教育改革関連

## ○ 副専攻制度「SDGs」を開始決定

- 令和4年度からはシラバスに「SDGsとの関連性」の項目が設けられ、授業科目とSDGs17項目との結びつきを確認し、関心のある授業の履修が可能になった。また、令和5年度より所属する学部学科のカリキュラムを学ぶ主専攻に加えて、文理横断でSDGsに関する専門科目を学べる副専攻制度を開始する。

- 「SDGs」の達成を目指して、学生グループの貢献度の高い取り組みや、実現可能性の高いアイデアを称え、助成することを目的に「SDGsグッドプラクティス」制度が開始。

## ○ グローバルな視点を育む取り組み

- 前年度に引き続き、グローバルな知見をより深められる機会を提供できるよう、「Soka Global Perspectives」連続講座を開催。東方政策40周年記念としてマレーシア・マラヤ大学の准教授と本学教員の講演会を開催。その他、駐日シンガポール大使、ITTO(国際熱帯木材機関)事務局長、キューバ共和国大使、ウクライナ・キウ経済大学准教授等、世界各国の識者をお迎えした。

ウクライナ・キウ経済大学  
オルガ・クベツ准教授

## ○ 南アフリカ開発共同体(SADC)講座の開講

- 令和4年度春学期よりSADC加盟国の駐日大使等を講師に迎え、SADC講座を開催。好評につき令和5年度にも開講。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ○ 海外大学院合格者数

- 57名の学生が海外大学院に合格した。主な進学先大学院は、米国・ニューヨーク州立大学院、米国・アメリカ創価大学大学院、英国・グラスゴー大学公共政策大学院、デンマーク・オーフス大学等。

### ○ 非英語の外国語基準達成者数

- 令和5年度より、多言語(英語・日本語以外)の語学試験で一定のレベルに達した学生に対して受験料補助を行うことを決定し、準備を進めている。

### ○ 最終年度キャンペーンで学生・教職員のモチベーションアップ

- 事業最終年度である令和5年度に向けて、特にコロナ禍で影響を受けた取り組みに対してキャンペーンを企画し、各担当部署と連携。学生海外派遣数や外国語能力基準達成者を増加させる取り組みや各種科目・行事などをキャンペーンと関連付けて開催予定。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ 国内外交流校・機関との共同研究・連携強化

- 世界市民教育の世界的拠点の構築を目指す本学の50周年事業の掉尾を飾る行事として第1回目となる「世界市民教育シンポジウム」を開催。「学びを生活に取り戻すー世界市民とジョン・デューイ」とのテーマのもと、世界25カ国・地域から約170名が参加し、基調講演や分科会発表が行われた。
- 日中国交正常化50周年を記念し、「日中国交正常化50周年記念フォーラムー日中両国の交流と大学の使命」を共同開催。各キャンパスをオンラインで繋ぎ、約250名の学生らが参加。

### ○ 「G7政策提言国際会議」を開催

- 令和5年5月に広島で開催される先進7カ国首脳会議(G7サミット)に向けて、「安全保障と持続可能性の推進」とのテーマのもと、政策提言国際会議を本学で3月に開催。核兵器や気候変動、パンデミックなど、人類の生存を脅かす危機が深刻化する中で開かれるG7サミットを前に、研究者・NGO(非政府組織)の代表が集った。提言は日本の首相、外務大臣、G7サミット事務局に提出された。



G7政策提言国際会議の様子

### ○ 各種ランキングのランクイン・ランクアップ

- THE世界大学ランキング日本版2023では、国際性分野において6位(4年連続トップ10入り)にランクイン。
- QSアジア大学ランキング2023(11月発表)では、外国籍教員68位(国内6位)、海外派遣交換留学生96位(国内7位)、外国人交換留学生116位(国内14位)、外国人留学生143位(国内21位)にランクイン。



リチャード・ムナン氏による基調講演

### ○ 創立50周年記念行事:「価値創造xSDGs」シリーズイベント

- 国連のSDGsの推進に寄与するための取り組みとして、「持続可能な開発と環境保護における大学の役割」をテーマに、4回目となる「価値創造 x SDGs」シリアルイベントを開催。国連環境計画(UNEP)アフリカ地域の気候変動プログラムコーディネーターのリチャード・ムナン氏による基調講演など、各界の著名な方をお迎えし、イベント全体を通して、参加者一人一人がSDGsについて考え、行動を起こすきっかけになった。



「価値創造xSDGs」シンポジウムの様子

### ○ 本学学長が東南アジア高等教育協会(ASAIHL)の理事に就任

- 11月、鈴木将史学長がASAIHLの理事に就任。現在では東南アジアの他、ヨーロッパや北米など世界25カ国・地域の約230の大学が加盟している国際学術機関である。
- 同協会の年次総会を日本で初めて平成30年に本学で開催しており、令和5年には日本で2回目となる年次総会を本学で開催する。

## ■ 自由記述欄

### ○ 学生の活躍

- 世界規模のコンペティションである「IROS2022 Interactive Service Robot Competition in Cyberspace」と10月に共同開催された「RoboCup Japan Open 2022 @Home Simulation OPL」で理工学部・崔龍雲研究室のSOBITSが総合優勝した。また、3月に開催された「RoboCup Japan Open 2022 @Home OPL」の最も難易度の高いリーグにおいてもすべての競技で1位を獲得し、総合優勝。令和3年に続き2年連続での優勝となった。
- 「第8回SDGs 学生小論文アワードby住友理工」で、本学学生が最優秀次席を受賞。本コンテストは、平成26年から毎年開催されており、令和4年はSDGsや脱炭素、生物多様性の保全などの重要性が増していることを背景に「『パーパス』を起点に企業を変えるには～存在意義はなぜ必要なのか～」との募集テーマの元、開催された。



2年連続優勝したSOBITS